

風しんの追加的対策の現状について

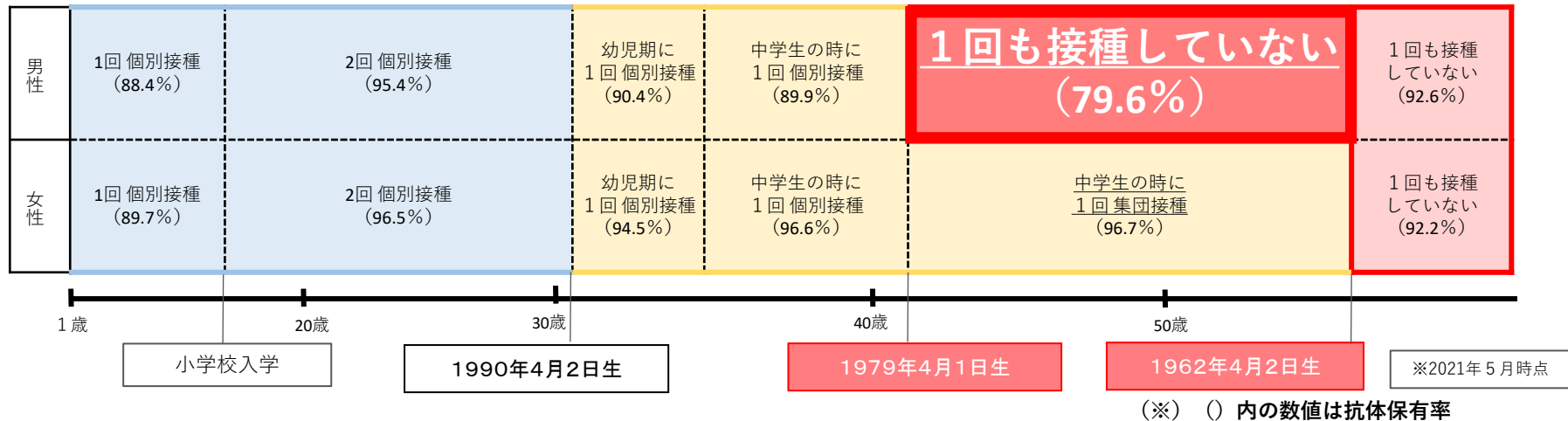
厚生労働省 健康・生活衛生局
感染症対策部 感染症対策課

風しんに関する追加的対策

追加的対策のポイント

特に抗体保有率が低い昭和37年4月2日から昭和54年4月1日生まれ（令和5年度44歳から61歳）の男性に対し、

- ① 予防接種法に基づく定期接種の対象とし、令和元年度から令和3年度まで（3年間）、全国で原則無料で定期接種を実施
- ② ワクチンの効率的な活用のため、まずは抗体検査を受けていただくこととし、補正予算等により、全国で原則無料で実施
- ③ 事業所健診の機会に抗体検査を受けられるようにすることや、夜間・休日の抗体検査・予防接種の実施に向け、体制を整備



風しんに関する追加的対策の今後について【全体概要】

経緯

- 2018年夏以降の風しんの感染拡大を受け、過去に公的に予防接種を受ける機会がなかった世代の男性を対象として、3年間、全国で抗体検査と予防接種法に基づく定期接種を実施することとした。
- 一方、新型コロナウイルス感染症に伴う受診控え、健診の実施時期の見直し等の様々な影響により、当初の見込みどおりには進んでいない。
- 今後の風しんの流行を防止するために、当初目標まで抗体保有率を引き上げる必要があるため、目標の到達時期を延長し、引き続き、追加的対策を実施する。

目標

【対象】 **昭和37年4月2日～昭和54年4月1日生まれの男性**

- 【目標】 (1) **2021年7月まで**に、対象世代の男性の**抗体保有率を85%**に引き上げる。
(2) **2021年度末まで**に、対象世代の男性の**抗体保有率を90%**に引き上げる。

【対象】 **昭和37年4月2日～昭和54年4月1日生まれの男性**

- 【目標】 (1) **2022年12月まで**に、対象世代の男性の**抗体保有率を85%**に引き上げる。
(2) **2024年度末まで**に、対象世代の男性の**抗体保有率を90%**に引き上げる。

促進策

風しんの追加的対策の実施時期の延長に伴い、主に以下の促進策を実施している。

①健診に合わせた抗体検査を促進する観点から、毎年、抗体検査未受検の対象者全員にクーポンを一斉送付する。
(令和元年度～令和3年度は対象世代を分割し、クーポン券を送付していた。)

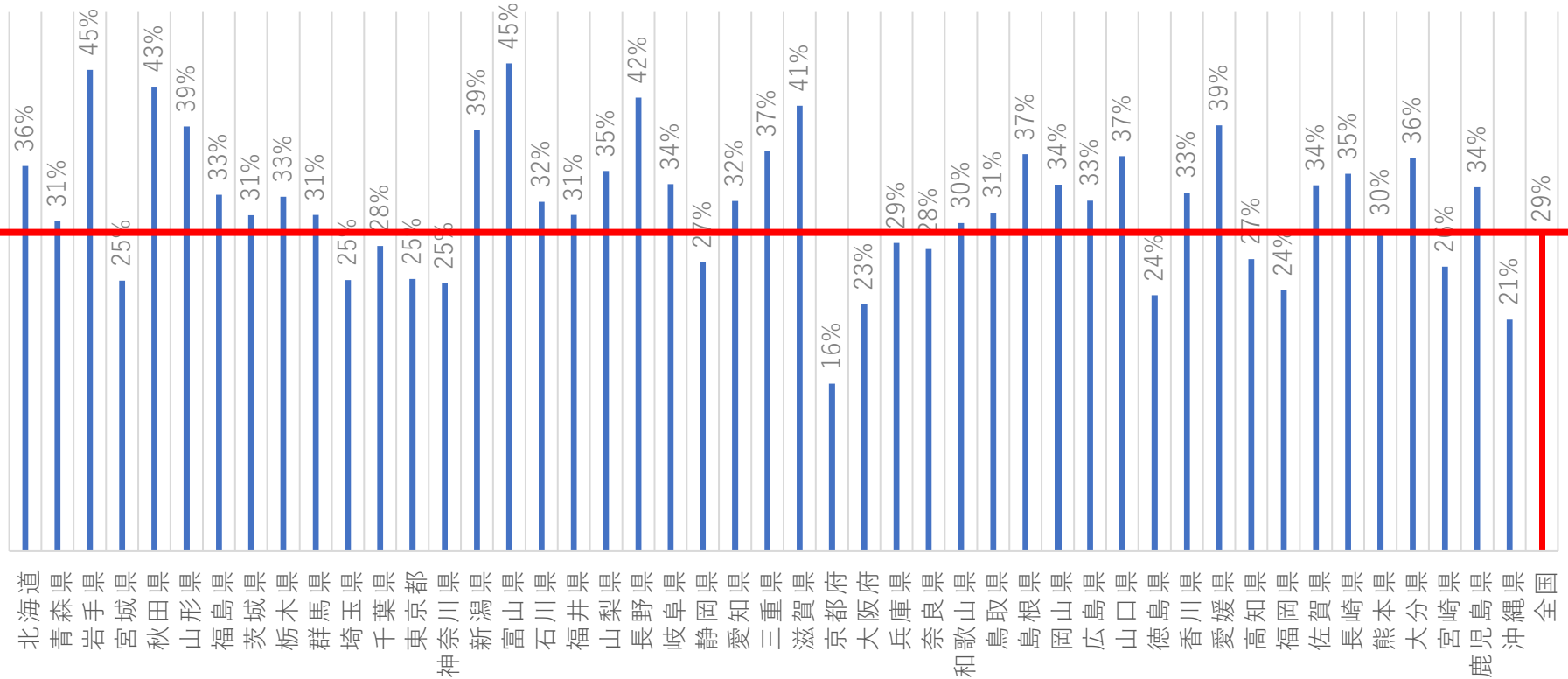
②新型コロナワクチンの接種を行う医療機関や大規模接種会場において、ポスター、リーフレットを用いて啓発するとともに、新型コロナワクチンの職域接種を実施する会場に対しても周知・協力依頼を行う。

③対象者の利便性の向上を図る観点から、即日、抗体検査の結果が判明する検査キットを導入する。

※ ただし、偽陽性を含むIgM陽性の場合の風しんの診断が必要となることに留意するとともに、IgG陰性だった場合にワクチン接種につなげるために、当該検査キットを用いる場合は、検査日に風しんの診断やワクチン接種が実施可能な体制を求めるとし、限定的に導入することとする。

抗体検査数の累積件数と実施率

- 抗体検査のクーポン券使用実績は、令和元年度は1,245,330件、令和2年度は1,769,990件、令和3年度は847,962件、令和4年度は531,596件。令和5年度は5月までに98,901件。令和元年6月～令和5年5月までの合計は4,493,779件となっている。
- 都道府県別では上位が富山県、岩手県、秋田県だった。



R 1.6月～R 5.5月

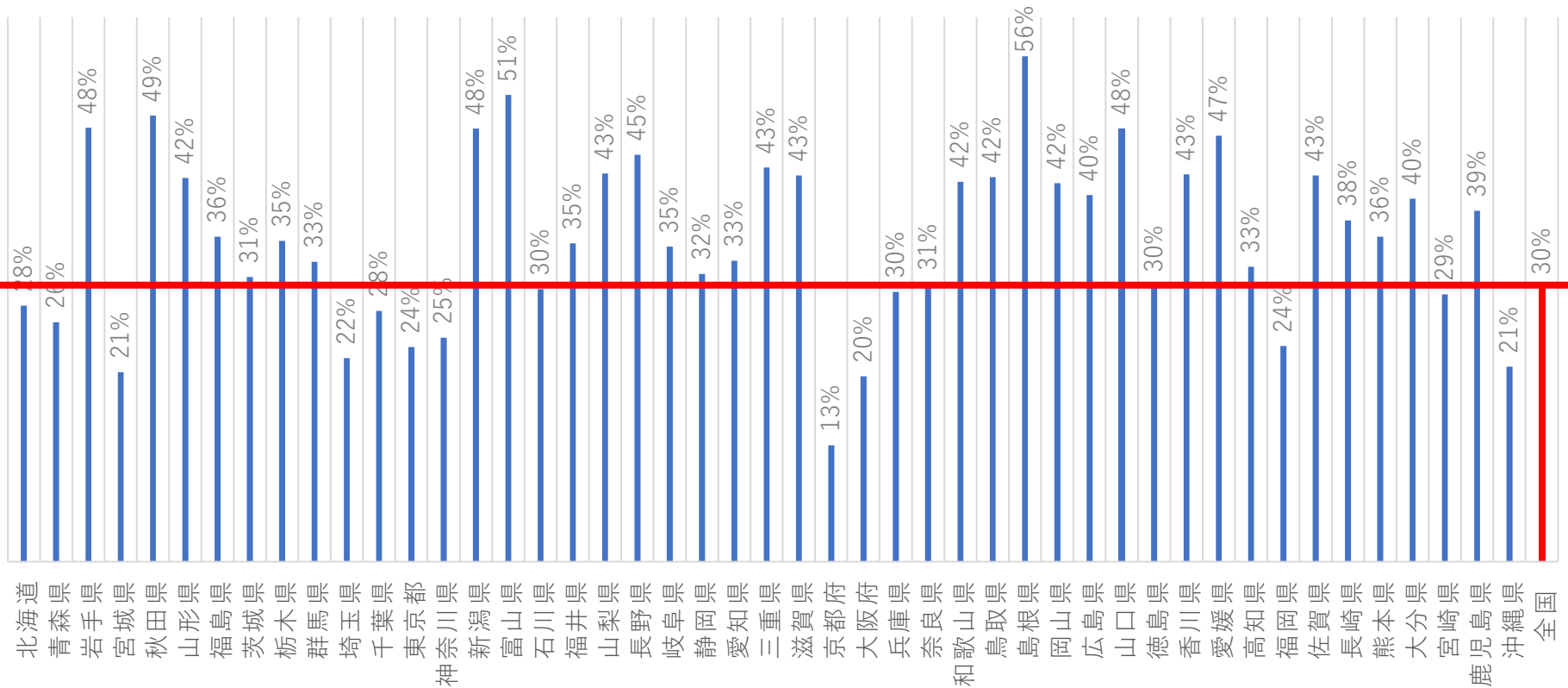
4,493,779 件

R 5年6月時点

抗体検査の実施率 = 抗体検査のクーポン券使用実績 / 対象者人口
 対象者人口：約1,534万人

予防接種の累積件数と実施率（推計）

- 予防接種のクーポン券使用実績は令和元年度は270,113件、令和2年度は359,312件、令和3年度は200,419件、令和4年度は121,390件、令和5年度は5月までに21,572件。令和元年6月～令和5年5月までの合計は972,806件となっている。
- 都道府県別では上位が島根県、富山県、秋田県だった。



R 1.6月～R 5.5月

972,806 件

R 5年6月時点

予防接種の実施率（推計） = 予防接種の実績数 / 対象者人口 × 21% ※ 1

対象者人口 = 約1,534万人

※ 1 21% = 対象世代の2017年抗体保有率から推計される陰性の割合の全国平均値

クーポン券の送付と抗体検査等の実施状況について

クーポン券の送付規模

昭和54年4月1日生～昭和37年4月2日生まれの男性	約1,534万人
2019年度のクーポン券送付範囲（原則※） 昭和54年4月1日～昭和47年4月2日生まれ	約646万人
2020年度のクーポン券送付範囲（原則※） 昭和47年4月1日生～昭和41年4月2日生まれ	約570万人
2021年度のクーポン券送付範囲（原則※） 昭和41年4月1日生～昭和37年4月2日生まれ	約319万人

※ それ以外の年代にも市区町村の判断で送付可能。
また、対象者が市区町村に申し出た場合も、クーポン券を発行。

第28回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会予防接種基本方針部会
<https://www.mhlw.go.jp/content/10906000/000473488.pdf>

抗体検査・予防接種の実施状況

クーポン券を利用した件数（国保連が処理した実績件数）令和5年6月時点

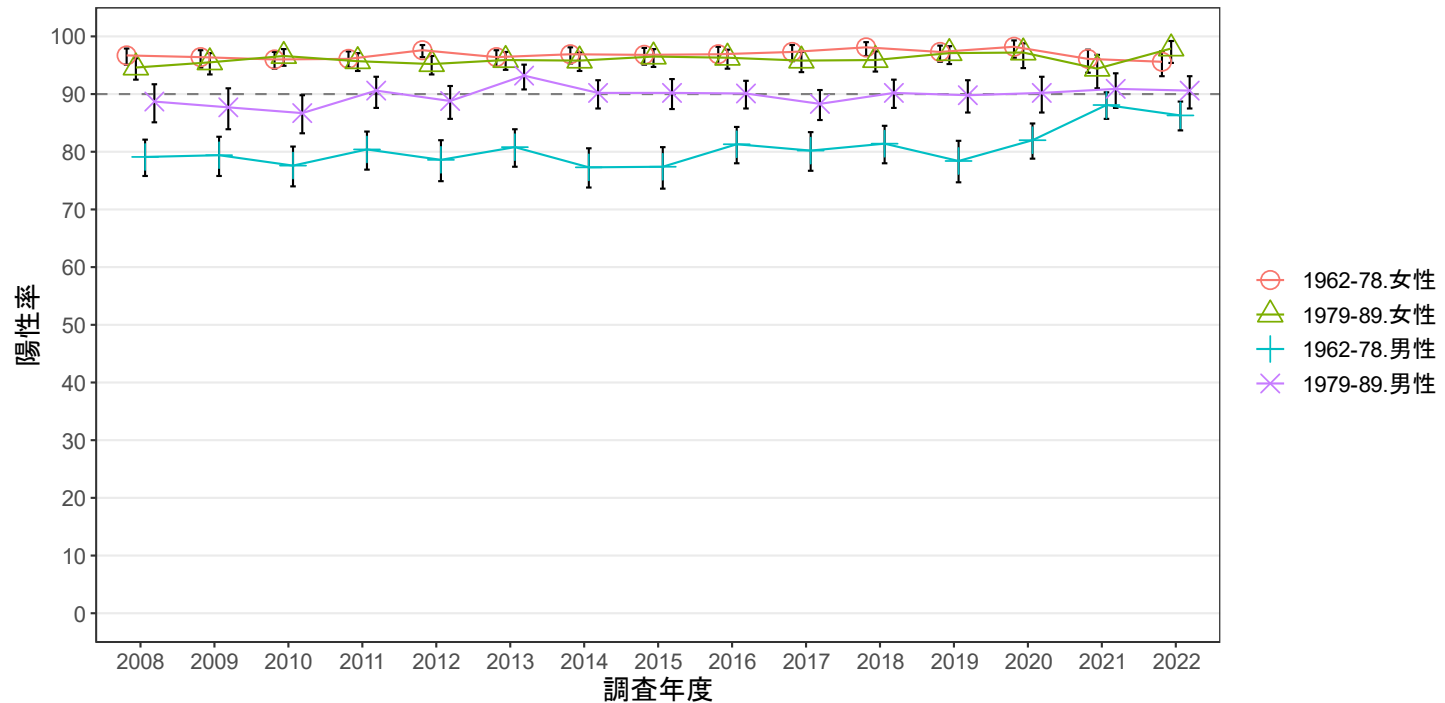
		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	到達目標(累計)
抗体検査	見込み	約330万人	約370万人	約220万人			約920万人
	実績	約125万人	約177万人	85万人	53万人	9.8万人	約449万人*
予防接種	見込み	約70万人	約75万人	約45万人			約190万人
	実績	約27万人	約36万人	20万人	12万人	2万人	約97万人*

* クーポン券により実施された抗体検査数のみであり、自治体が独自に実施した抗体検査の人数を含まない。

追加的対策の到達目標とそれに必要な抗体検査・予防接種の実施規模

- 【目標1】2021年7月までに抗体保有率を85%（抗体検査を約480万人、予防接種を約100万人）
- 【目標2】2022年3月までに抗体保有率を90%（抗体検査を約920万人、予防接種を約190万人）

1962年度—1978年度生まれの男性の抗体保有率について（参考）



1962年度—78年度生まれの男性の抗体保有率

(n=529~807。HI 抗体価 8 以上を風疹抗体陽性)

- 2018年度：81.4% (95%CI：76.7~86.0%)
- 2019年度：78.5% (95%CI：73.6~83.4%)
- 2020年度：82.0% (95%CI：77.6~86.4%)
- 2021年度：88.2% (95%CI：84.2~92.2%)
- 2022年度：86.3% (95%CI：82.1~90.5%)

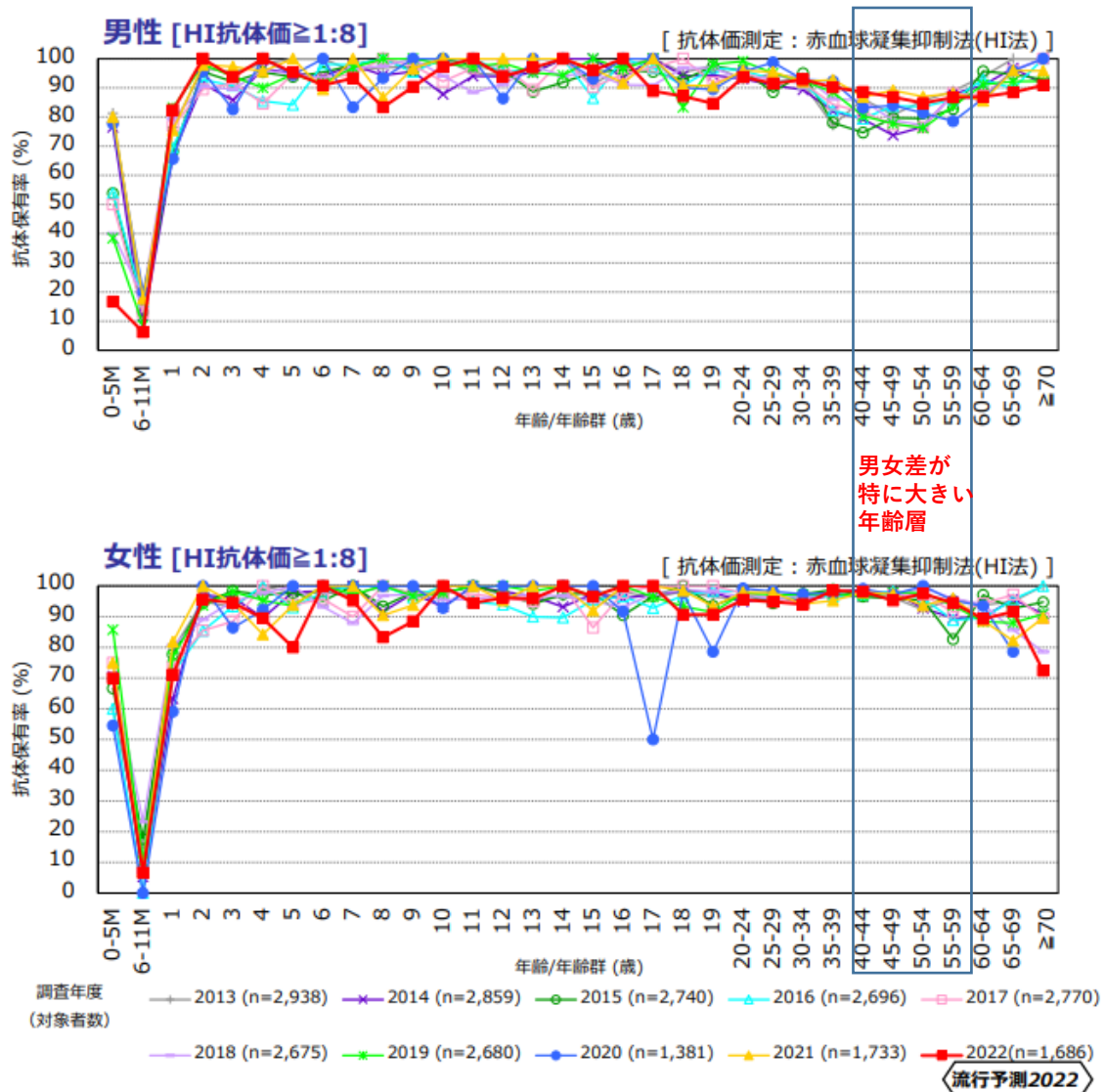
注意：

「年度」ごとのデータであるため、対象者ではない1962年4月1日生まれの抗体保有率を含み、対象者である1979年4月1日生まれの抗体検査は含まない。

出典：

国立感染症研究所 感染症流行予測調査

年齢・年齢群別の風しん抗体保有状況（2022年度）



現在及び今後に向けた実施率向上策

- 対象者の利便性向上のため、令和5年度は、自治体に抗体検査未受検者へのクーポン券再発行を依頼した。
 - 厚生労働行政推進調査事業費補助金による研究班において、ナッジなど、行動経済学的知見を活用したメッセージを取り入れた啓発資材（動画、ポスター、リーフレット）、自治体向けのナッジを活用した抗体検査受検勧奨のための手引きを制作した。
- ▽
- 自治体、医療機関、企業等に啓発資材を活用いただき、対象者への受検勧奨を継続的に行う。
 - 対象者の利便性向上のため、職場で抗体検査を受検できるよう、企業への働きかけを促進する。

ランダム化比較試験を活用して、
「風しん抗体検査の勧奨通知」の効果を測定しました

ナッジ・リーフレットは、抗体検査の受検「意欲」を高める

2022年7月に、43～60歳の男性のうち、まだ抗体検査を受けていない人を対象に、アンケート調査を行いました。アンケート調査では、以下の3グループに分けて、ランダム化比較試験の形式で、異なる情報を提示した後、抗体検査の受検意欲を把握する質問を設けました。

- ナッジ群** 基礎的な情報+ナッジ・リーフレットを提示するグループ
- 一般群** 基礎的な情報（厚生労働省からのお知らせ）を提示するグループ
- 統制群** どの情報も提示しないグループ

グループ	受けると思う	どちらかというと思う	受けると思う	受けると思う	受けると思う
統制群	22.3%	31.4%	20.0%	17.1%	22.2%
一般群	15.5%	24.7%	35.4%	28.4%	28.4%
ナッジ群	28.4%	28.4%	28.4%	28.4%	28.4%

ナッジ・リーフレットを見ると、受検意欲がより高まっている

ナッジ・リーフレットは、抗体検査の受検「行動」も促進

2022年度に、複数の地方自治体の協力を得て、風しんクーポン券を送付するときに、ランダムに以下の3グループに分けて効果検証事業を行いました。

- ナッジ・リーフレットを追加するグループ
- ナッジ・リーフレット+封筒のメッセージを追加するグループ
- ◎ どの情報も追加しないグループ

ナッジ・リーフレットの封入で受検率が上昇する傾向を確認できている (注：中間評価時点)

グループ	2022/7/17	2022/7/18	2022/7/19	2022/7/20	2022/7/21	2022/7/22
ナッジ・リーフレット	0.00	0.25	0.45	0.65	0.85	1.00
ナッジ・リーフレット+封筒のメッセージ	0.00	0.20	0.40	0.60	0.80	1.00
情報追加なし	0.00	0.15	0.35	0.55	0.75	1.00

厚生労働省からのお知らせ

風しんの予防接種は、妊婦、子育て世代が中心に行われています。しかし、公的接種を受ける機会のない年代も少なくありません。43歳から60歳までの間にまだ接種していない方は、抗体検査を受ける機会に比べて早く（約8割）なっています。

対象者の方には、お届ける無料クーポン券を利用して、まだ抗体検査を受けていただき、抗体検査の結果、十分な量の抗体がない方は、定期接種の対象となります。

風しんは、感染後の発疹（発熱のしぼり）などによって他人にうつる、感染方法が幅広い病気です。妊婦の感染が風しんに感染すると、胎児が心臓病や聴覚・視覚障害などの障害が生まれるなど、なんとも怖い病気です。抗体検査を受けることで、また重要な情報を提供することができます。抗体検査でも風しんに感染しているかどうかがあるので、結果を拡大できない方には、抗体検査が有効な場があります。

厚生労働省の情報

43～60歳男性の皆様へ

風しんの抗体を持っていると「思込んでいませんか？」

抗体検査を受けることで、風しんの感染リスクを減らすことができます。また、重要な情報を提供することができます。抗体検査でも風しんに感染しているかどうかがあるので、結果を拡大できない方には、抗体検査が有効な場があります。

ナッジ・リーフレット

ランダム化比較試験 (RCT)

RCTは、提供した介入（ナッジ）の効果を測定するための、EBPM手法の一つです。対象となる市民の方をランダムに「介入群（ナッジを行う群）」と「対照群（ナッジを行わない群）」に割り振って結果を比較することで、ナッジの効果をより正確に評価することができます。今回の実施事業でも「ナッジ群」、「一般群」、「統制群」などの無作為割り当てを行いました。

詳しくは巻末のQRコードを参照してください。

ガイドブック:「自治体職員・保健師のためのナッジ活用術—風しんの集団免疫を獲得せよ—」一部抜粋
 (令和4年度厚生労働行政推進調査事業費の新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業「風しん第5期定期接種の対策期間延長における風しん予防接種促進に関する研究」の成果物)

ランダム化比較試験により、ナッジを活用した勧奨通知の効果を測定。

抗体定性検査キット（バイオライン ルベラIgG/IgM）について【途中報告】

経緯

- 2021年12月17日の第46回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会予防接種基本方針部会・第57回 厚生科学審議会感染症部会（合同開催）において、風しんの追加的対策で、2021年10月14日に薬事承認された風しんの抗体定性検査キット（バイオライン ルベラIgG/IgM）（以下、「本キット」という。）を医療機関を限定して導入することを了承いただいた。
 - ・ 製造販売業者であるアボット ダイアグノスティクス メディカル株式会社（以下、「アボット社」という。）の薬事承認の際の資料によると、抗風しんウイルスIgG抗体検出相関性試験において、予防接種推奨判定値を用いた他法（CLEIA法、EIA法、HI法）との接種推奨一致率は93%以上であった。
 - ・ イムノクロマト法では偽陽性が避けられないため、抗風しんIgM抗体陽性の場合に、医療機関が偽陽性の可能性を考慮して適切に対応いただけるか、などの意見があり、まずは医療機関を限定して導入することとなった。
- 令和4年度厚生労働科学研究「風しん第5期定期接種の対策期間延長における風しん予防接種促進に関する研究」（以下、「研究班」という。）において、本キットを医療機関を限定して導入していたが、本キットの精度について検証が必要との指摘が研究班よりあった。
 - ・ 協力医療機関において、本キットを用いた約90名の抗風しんIgG抗体検査の判定結果は、陽性約20%、陰性約80%と高い陰性率だった。
 - ・ 研究班において、本キットを用いてHI抗体価が既知の健常成人の血清（n=266）を測定したところ、抗風しんIgG抗体陽性と判定されたのは、HI抗体価16以上の検体のうち2割にとどまり、今回使用されたロットについては、感度が不十分であると考えられた。
 - ・ なお、本キットは研究班の協力医療機関のみが使用しており、一般の医療機関には販売されていない。
- これを受けて、アボット社は原因究明のための検証を開始。令和5年6月30日、同社は、ロット間のばらつきが確認されたとして対象ロット（上記医療機関で使用されたものと同じロット）の自主回収を開始。

対応状況、今後の方針

- ① アボット社における原因究明が終わるまで、本キットの使用は適当ではないと判断し、風しんの追加的対策での使用を中止した。
- ② アボット社より検証結果が提出され次第、風しんの追加的対策への再導入の可否を判断する。
- ③ 風しんの追加的対策における使用中止を決定した時点で、本キットによる抗体検査を予約されていた方、検査の結果陰性でMRワクチン接種を予約されていた方、MRワクチン接種済みの方に対し、本キットの使用中止について医療機関から連絡いただくため、令和5年5月24日付けで、医療機関に対し事務連絡を発出、また自治体に対し対象者からの問い合わせ対応を依頼する事務連絡を同日付で発出した。